

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な進路希望をもつ生徒に対応できる教育課程を編成し、「未来探しの旅の出発点」として、**希望進路の実現**に取り組む。そのための基礎として、コミュニケーション能力を高め、互いに学び合い高め合う関係づくりの中で**自己肯定感を育む**教育を行う。また、地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」となるため、地域との連携を図りながら、地域のリーダーを育てる学校づくりを行う。

- 1 自らの将来について考え、社会で生き抜く力を獲得し、希望進路の実現に向かって努力する態度を育む
- 2 自分の個性を大切にするとともに、他人に対して思いやりの心を持ち、それぞれの立場を理解して行動できる心を育む
- 3 学級活動、学校行事、部活動、地域交流活動などに積極的に参加し、常に自分を高める気持ちを育む
- 4 地域及び保護者との連携を密にし、地域や社会に貢献できる人材を育成する
- 5 組織力を高め、教員および生徒が個人の能力を伸ばすことのできる環境をつくる

2 中期的目標

1 自己肯定感を高める。

(1) 授業改善を積極的に推進し、生徒の基礎学力を向上することにより、達成感を高める。

- ア 生徒が社会において必要とされる力について認識し、小・中学校でのつまづきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てるため、「分かる授業」「楽しい授業」を実現する。
- イ 課題を早期に発見し、個々の生徒への対応を充実するため、増学級や習熟度別少人数授業を積極的に展開する。
- ウ 公開授業や研究授業などの授業研究についての取り組みを積極的に展開し、授業アンケートの結果を分析し、生徒が自発的・主体的に学ぶための授業を推進し、授業力の向上を図る。
- エ 全HR教室へのプロジェクターの設置に加え、学校経営推進費を活用し、生徒が主体的に学習できるように、タブレット端末を購入したり、ポスターでの発表ができるように大判プリンターを導入するなど、学習環境の充実を図るとともに、ICT機器の有効な活用方法を研究する。併せて生徒自らが経験し、考えることにより、自己実現に向けて、主体的に取り組むことのできるよう、授業改善に取り組む。
- オ 実験や実習などを行ったり、発表の機会を設けるなど、生徒が体験から学ぶ機会を多く取り入れることにより、主体的に学ぶ姿勢や探究心を育む。
- カ 朝学習における目標を明確にし、基礎学力の充実を行うとともに、生徒のつまづきや困り感を早期に発見する。
- キ 基礎学力診断テストを継続して実施し、その結果を生徒の学力向上に結び付けるように計画する。
- ク 生徒の現状を正確に把握するとともに、指導の規準を明確にし、教員の指導体制を強化することにより、授業規律を高める。

(2) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。

- ア 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。
- イ 服装、髪型などとともに、時間を守ることの大切さを指導することにより、規範意識を高め、社会の一員として活躍できる人材の素養を身に付けさせる。
- ウ 校内美化について計画的な指導を行う。美化意識を高めるために定期的に美化運動を行う。
- エ 身近な生活の中で生起する人権課題（いじめやSNS等）に対して人権意識の高揚を図る。

2 多様な進路希望をもつ生徒の希望進路を実現する。

(1) 進路実現に向けて、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。

- ア 平成 29 年度入学生の 2 年次における 7 コース(情報、体育、芸術、郷土、就職、看護、進学)での授業内容を充実させることにより、多様な進路希望に対応できる教育課程の完成をめざす。
- イ 平成 29 年度入学生の 1 年次における「長北タイム」の内容を発展させ、アサーティブなコミュニケーション能力を育むなど、主体的・自発的な生徒の学習意欲を引き出すとともに、情報リテラシーについて学習し情報化社会に生きる人材の育成を図る。
- ウ 平成 29 年度入学生の 1 年次に引き続き、2 年次でも実施する「朝学習」においては、基礎学力の充実とスケジュール管理能力の充実をめざす。

(2) 進路指導計画を整理・拡充し計画的な進路指導を実現する。

- ア 3 年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒が進路希望を確立する際の計画を明確にするとともに、教員の計画的な指導につなげる。
 - イ 資格試験などに積極的に取り組む中で、社会において必要とされる力を認識するとともに自ら獲得できる生徒を育む。
- ※ 就職希望者の決定率 100%をめざす。

3 安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 地域貢献を行うことによる、社会の一員としての意識を高める

- ア 地域とのつながりを大切にし帰属している意識をもつことにより、郷土を愛する精神を養い、社会に貢献できる将来のリーダーの育成をめざす。
- イ 地域の青少年健全育成会などの団体との連携を密なものとし、フェスティバル等やボランティア活動などの社会貢献を通して、社会の一員としての自覚を養う。また、楽習室に生徒がアシスタントとして参加することにより、主体的な学びの場として活用する。
- ウ その他の団体、企業等との連携をさらに模索し、実施することで、地域、社会との結びつきを深める。

(2) 生徒会活動やクラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。

- ア 体験入部システムの改善や部活動結果の広報充実により加入率を上昇させる。
- イ 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。

(3) 保護者との連携による信頼関係の構築

- ア 保護者との連携を密にし、将来への目標を持つことにより、基本的な生活習慣を確立する。
- イ 就学支援委員会を中心に、合理的配慮への理解を進め、個別の教育支援計画の作成や適切な評価がなされるように、教育環境を整える。
- ウ 教育相談体制を充実させ、個々の生徒及び家庭環境に対して、寄り添った指導を心がける。
- エ 地域の中学校との連携を密にし、生徒の生活環境を理解することにより、将来にわたって社会で生き抜く力を養う。

(4) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。

- ア ホームページの充実を行うとともに、ブログによる情報発信を行う。
- イ 学校公開講座・楽習室(小中学生対象)の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。
- ウ 保護者への携帯連絡網を充実させ、登録割合を上昇させる。

4 学校運営体制の効率化と危機管理能力の向上

- (1) 学校運営体制の効率化をめざす
- ア 校長のリーダーシップとともに教員のフォロワーシップの向上を図ることにより、迅速な意思決定と組織内での合意形成を図る。
 - イ 分掌・委員会の統廃合を進め、業務の細分化による非効率化を解消する。
 - ウ ICT機器の活用を含めた業務の効率化を推進し、情報伝達の迅速化と情報共有を進める。
 - エ 情報処理委員会を発足し、校務処理システムの効果的な活用を行い、校務の効率化と適切な情報共有を行う。
- (2) 組織目標の明確化と課題解決に向けての取り組み
- ア 学校の目標の教員間での共有を進め、各専門分野での役割を明確にし、組織力の向上をめざす。
 - イ 現状分析と目標設定を基本とした、課題の明確化と具体的な対応策の構築を行う意識の浸透を図る。
- (3) ミドルリーダーの育成
- ア 初任者をはじめとする経験年数の少ない教員に対して、積極的に発表や情報交換の機会を作り、意見交換することにより、次代のリーダーとなる資質を育成する。
- (4) 危機管理体制の充実と防災教育の再構築
- ア いじめ等の未然防止、早期発見、対策について情報を共有し、機能しているか体制を常に点検する。
 - イ 日頃より多様な状況を想定しながら、防災についての意識を高める。
 - ウ 個人情報の管理をはじめ、多様なインシデントに関して共有し、個々の危機管理能力を高めるとともに組織としての重大事故を未然に防止する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者の結果について</p> <p>昨年と比較したところ、本年度の本校の教育目標や指導方針について一定の理解をいただいている点について、数値の上昇がみられる。一方で学校行事に関連する項目、PTAに関する項目について数値の下降がみられた。学校と保護者が協力して取り組んでいくための施策を講じていく必要がある。部活動、生徒会活動について数値が芳しくない。生徒数が減少する中での課題である。</p> <p>自由記述欄において、授業に関する意見要望が多くみられた。特に、授業規律、進路を見据えた授業、基礎学力の定着への意見が寄せられた。また、閉校に関する質問や要望、応援のコメントがみられた。</p> <p>教職員の結果について</p> <p>全ての項目が昨年度より数値が上昇した。特に組織対応、家庭との連携、校内研修や授業見学、教職員・生徒・保護者への情報公開、災害などの危機管理や人権問題などの危機管理に関する項目の上昇が著しい。</p> <p>自由記述欄においては、授業について、生徒への規律指導、基礎学力の定着などが多く、意欲のある生徒や大学進学を希望する生徒などへの指導を考えるべきではないかという意見も寄せられた。また、組織運営上の課題として、教職員間でのコミュニケーションを円滑にしてより効率的な組織運営を望む意見がみられた。</p> <p>生徒の項目結果について</p> <p>項目数値は、ほぼ全ての数値について上昇した。特に本年度ICT機器を活用した授業については大幅な上昇となっている。一方、授業や部活動を通しての地域の人との関わり、地元探訪についての項目についてはほぼ横ばいであり、校内美化についても、肯定的意見は増えたが、40%程度であり引き続き改善すべきである。</p> <p>自由記述欄においては、全学年から授業について騒がしい、集中したいという意見が出ており、授業規律について早急に対応していく必要がある。校則に関して全体的に緩いという意見と厳しいという意見の両方がみられる。学習環境について、9月以降設置したホワイトボードが見えにくいという意見が複数見られたが、本年度内に遮光カーテンを設置して対策する予定である。</p> <p>全般として、授業研究や教育環境の改善は進んだが、授業規律の改善に関する要望が多く出された。次年度の重点課題としたい。また、教員および生徒に比べ、保護者において改善した項目は少なくなっている。さらに的確な情報提供を行い、開かれた学校づくりを進めることで、保護者の理解を得ていく必要がある。</p>	<p>●第1回学校運営協議会【平成30年6月22日】</p> <p>【授業を参観した感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化、多様な生徒への対応に先生方が尽力されているのを見せていただいた。教員と生徒の信頼関係を大切にした授業作りを展開している。プロジェクターや書画カメラも積極的に活用していて、細かな配慮を行っていると感じた。 ・授業で生徒に前を向かせる工夫、教材の取り扱いなどを工夫されている。 ・授業の様子を見せていただいた感想は、率直に言って非常ににぎやかだなと感じた。他の委員の意見を聞いて、能動的な授業も静かな授業もそれぞれに意義あることなのかと思った。 <p>【授業改革・授業規律について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改革については、若手教員が中心となった授業研究PTを中心に活動している。パッケージ研修などを行い、研修を深めていく。教員相互の授業見学も積極的に行っていきたい。 ・授業規律についても教務部、生徒指導部などから選出した教員で構成した授業規律PTを中心に対応策を検討している。 <p>【ICT機器の活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に活用している。特別教室についてもICT機器を設置して活用している。特に実技教科の授業では有効である。展開教室では設置型プロジェクターを使用できないが、来年度は活用できるように教室配置などを考えたい。Wi-Fiの整備も考えている。 ・学校経営推進費についても、ICTを活用して授業に生かし、子どもたちの自己肯定感を高める授業を行っていただきたい。 ・府立高校でスマホを使った授業や宿題などを導入した経験があり、こちらの学校でも体制作りをぜひ積極的に行っていただきたい。 <p>【多様な生徒への対応について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒への対応として、個別の教育支援計画の策定を行っている。また支援の一環として外部の力を借り、学習支援員やSSWなどを活用する。早期の対応を心がけている。 ・配慮が必要な生徒の個別の支援計画については、本校で一定の手順を経て策定を行っている。昨年は初年度ということで策定に時間がかかったが、今年度は一学期中に策定を終え、計画を元に支援を行っている。 <p>【進路について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人票は300くらい。学校紹介では全員が就職。残り数名が個人で探すことになるが、最終的に全員就職している。 <p>【生徒指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・早退などについては、家庭との連絡を密にしている。 ・社会人予備軍として基本的な生活のルールを守ることについて、服装、髪型などが「高校生らしい」というのはどういったことかの線引きは難しいが、必要なことだと思った。 ・学年通信などで生徒をほめているのは生徒の自己肯定感を高めることにつながるので、続けていただきたい。 ・スマートフォンなどの所有率は？ →正式に統計を取ったことはないが、99%は所有している。今年度は、個人情報の流出や匿名の通報などがあった。 ・動画サイトを見ている小学生などが増えている。人権学習などを行っているのは誠によい取り組みだと思う。 ・バイク通学などで非常に迷惑をしている。近隣の苦情についての対策は？ →登下校のプロジェクトチームを立ち上げ、近隣の巡視、立ち当番を行っている。朝や下校時の登校マナーの指導、安全確認を行っている。バイク通学は警告を何度行っても、効果が上がらず苦慮している。 ・正門だけでなく、駐輪所や集会所に立ってほしい。用意周到にバイクを停めて制服に着替えて登校していく。ナンバープレートも近隣のものでない。 <p>→ご意見を伺い善処します。</p>

【地域との連携について】

- ・ 地域に支えられている学校であるので、地域の方からの貴重なご意見を重視させていただいている。苦情などについては迅速に対応している。引き続き地域にとって必要とされる学校をめざす。
- ・ 愛さつ運動、クリーンキャンペーン、千代田バラエティフェスティバルに参加している。ペットボトルカバー作りなど盛況であった。文化祭は地域の方にも開放している。

【情報の発信について】

- ・ お便りが手元に届かない。HPで確認しているが、情報が中々届かない。情報も古いものだったりしている。
- ・ メーリングリストを作って、登録している家庭に送っている。PTAの自動登録なので、現在は生徒用には対応していない。今年度中には連絡のみならず宿題なども生徒向けに発信できるようなシステム作りを行いたいと考えている。

【環境美化について】

- ・ お菓子のくずが落ちているのが残念だ。
- ・ 生徒会の生徒が掃除をしてくれているのはありがたい。

【奨学金について】

- ・ 奨学金制度について、社会的な問題として奨学金返済が滞ったりするという事を耳にするが、対応策などどのようにしているのか？

→ 返還については育英会などから返還の説明会に来ていただいている。また学生支援機構より専門の講師招き、説明会を行っている。学生自身が借用しているということ、また必ず返還をするように説明を繰り返して啓発している。現在の受給率は、日本学生支援機構は100名(50~60%)、育英会などの在学生の奨学金受給者は各学年30名前後(20~30%)となっている。

【学校施設について】

- ・ 月に一回産業医が校内巡視・職場安全点検を行っている。ブロック塀は地震の後緊急点検を行ったが、以前からひび割れがあったことは確認していた。地震の影響で少しひどくなったようなので、緊急修理を行っている。建築基準法的には合致しているが、老朽化しており早急に対応している。

● 第2回学校運営協議会【平成30年10月26日】

【施設改善及び新たな取組みについて】

- ・ タブレット端末112台導入、普通教室のプロジェクター設置・ホワイトボード化、教育支援クラウドサービス導入、食堂補助、トイレ乾式化、大規模災害備蓄、文楽鑑賞

【生徒の活躍について】

- ・ 水泳部：2年連続インターハイ出場、科学同好会：府学生科学賞で最優秀賞（知事賞）

【進路について】

- ・ 進路指導部の就職内定率の上昇の背景は？

→ 昨年度より、3年生全員対象に全教員で面接指導を行っている。

- ・ 指定校推薦の内訳について教えてほしい。

→ 4年制、短大から15校程度、専門学校は30校以上。

【各学年からの報告について】

- ・ 各学年の報告、特に学年通信がとても素晴らしい。先生方が日頃生徒をよく観察しているのが学年通信に表れている。2年生の学年通信は、先生方の気持ちの発信を丁寧に書いているのが素晴らしい。3年生は、是非全員が卒業できるよう指導を。
- ・ 学年の目標が明快でよい、自己肯定感を高めてほしい。
- ・ 地元探訪の学習は、地元で働くことも多い生徒たちにとって素晴らしい取り組みだと感じる。
- ・ 2年生の携帯指導が減ったことや、生徒指導事案の即時対応が素晴らしい
- ・ 3年生の慣れによる規律の乱れは進路実現後によくあること。スーツ着こなしセミナーの取り組みを実施後、また教えてほしい。

【多様な生徒への対応について】

- ・ SSWなどと連携している案件の数と中身の傾向などを教えてほしい。

→ SSWが現在10数名対応中。SCは支援の必要な生徒や学校生活での悩みなど幅広く対応してもらっている(5~6名)。府庁スーパーバイザーにも相談している。校内のみならず学校外とも連携していきたい。

- ・ 保健室来室の内容はどのようなものがあるか？外傷とメンタルとの割合はどうか？

→ 家庭での内容が多く、内面的なもので来室が多い。

- ・ 生徒指導と連携してケース会議など行って共有してほしい。クラス数は減るが、先生方も減る。うまく知恵を出し合してほしい。

【ICTの活用について】

- ・ 授業アンケートでのICT機器の運用評価はまだということも理解した。データからマッチングを考察してほしい。プロジェクターやタブレット端末、ホワイトボードの評価は？

→ 生徒の反応は様々。ホワイトボードの反射についての意見が出ているので対応していく。運用については先生方がそれぞれ工夫している。例えば、体育で生徒の運動を録画して、フォームを確認させたりしている。

- ・ 赤が見えにくいとの意見がある、板書における赤の見え方は？

→ 事前に先生に言ったり相談をしてもらえば、フレキシブルに対応する。

→ 色々研究して対応してもらいたい

【教育支援クラウドサービスの導入について】

- ・ IDがわからなくなったら再発行できるのか？

→ 担当が順次再発行している。年度途中からでも活用してもらえようとする。

・見ましたマークの意味は？
 →安否確認等で人数の確認ができることがメリット。周知してもらうようにする。

・教育支援クラウドサービスの導入で、他分掌などの情報の共有を図って PDCA を進めてほしい。同時期にお互いに見えるような ICT の活用を進めてほしい

【成績作業におけるミスの防止について】

・年度末の成績や追認定科目の成績を出す際にミスが生じている。現在、対応策を検討中だが、教員の負担にならないようにしたい。現在のミスのポイントなどを洗い出して対策を練っている。

【生徒指導について】

・生徒指導部としていじめ対策の意識を高めてもらいたい。ネットいじめの現状を鑑みてどのような防止対策を考えているか？
 →表立っていないところが課題。生徒と密にコミュニケーションをとることにしている。目に見えない分心の傷が大きい。保護者との連携を早くする。色々な機関との連携も行ってほしい。

・今夏木戸住宅内でのゴミのポイ捨てが少なかった。ただ単車通学の駐車が減らない。
 →週 2、3 回苦情が来ており、その都度啓発活動を行なっている。第 7 ブロック共通の課題。もっと取り組んでいく。
 →錦織公園辺りでよく見る。結構危険な運転をしているので注意してもらいたい。

・自転車通学の割合は？
 →登録自体は全生徒の半数。

・自転車のマナーなどの指導は？
 →指導の範囲をどこまでにするか検討している。携帯の指導の中で、ながら運転は厳しく指導している。携帯に依存をしていると認識している生徒が多数いる。もっと色々指導していきたいと思っている。

・雨天時の生徒送迎における交通整理が課題となっている。
 →小学校近辺の道路も時間通行止めになっているので渋滞が慢性化している。保護者が送り迎えする時代ではあるが、対応を考えてもらいたい。

【部活動、行事について】

・入部率は、運動部は下がっていて、文化部は上がっているということだが、それぞれの割合を出してほしい。

・和太鼓部は何人入部したのか？
 →4 名入部している。文化祭からお披露目、OB が指導してくれている。
 →外部でも活動してくれることを希望する。千代田フェスタ等でも頑張ってもらいたい。

・3 学年で行う最後の文化祭をぜひ成功させてほしい。
 ・行事のあり方を見直していくことについて思い切った判断をしてもらいたい。

【進捗状況について】

・今の時期は、PDCA のチェックをしてきている。来年度に向けてのアクションは？
 ・特活の報告がわかりやすい。
 ・総務部のチェックとアクションをまとめて知らせてほしい。
 ・校内美化 PT で具体的な目標を立てて実践することはよいと考える。今の進捗状況は？
 →清掃箇所についてチェックリスト作りを行う予定。
 ・それぞれの PT の進捗をまた教えてほしい

【まとめ】

・チーム学校として生徒を育てていくため、多く人とつながっていききたい。個業ではなく、全体の一員として業務にあたっていきたい。

●第 3 回学校運営協議会【平成 31 年 2 月 19 日】

【授業アンケートの結果について】

・第 1 回目と第 2 回目の比較を行った。教材活用についてはタブレット端末の活用などの効果があったと見られる。
 ・授業内容は改善され、生徒の満足度も上がったが生徒意識が下がっているのは、教員の授業改善への努力は感じるが、生徒自身が自らの授業を受ける姿勢が悪くなったと感じていることが数値として現れたのではないか。

【学校教育自己診断の結果について】

・保護者の回答率がさらに低かった。今年度は紙によるアンケート調査をしたが、次年度は学習支援クラウドサービスなどを活用して回答率を高くする。部活動・生徒会活動について数値が芳しくなく、生徒数が減少する中での課題である。
 ・教職員の回答に関しては、すべての項目において肯定的回答率が増えた。
 ・生徒の回答に関しては、ほぼすべての数値について上昇している。特に ICT 機器を活用した授業については大幅な上昇が見られた。部活動、校内美化に関しては、前年度よりは改善しているもののまだ肯定的な回答は少ない。

<ICT 機器の活用>

・ICT 機器の活用について、実際の活動の中での教員の生の意見をお聞きたい。
 →プリント学習などでは指示に時間がかかったが、プロジェクターを活用してすぐに示すことができる。また、世界遺産などの映像を授業の中で見せるなど、有効に活用できている。
 →インターネットサイトで、スマートフォンを使って生徒がゲーム感覚で学習に主体的に取り組むことができるのものが、生徒の興味関心を引くことができている。
 ・ツールとしてどんどん活用していくことは非常に有効だと感じる。その反面、スマホ依存とならないようしっかり指導していく必要がある。
 ・SNS で不適切な動画を拡散したりする風潮に懸念を抱いている。学校での教育も大事

だが家庭教育の問題でもある。

→小中学校でもスマホの持ち込みを認める動きがあるが、ガイドラインをしっかりと作りながら、指導していく必要がある。

→今年度実際にあったICT機器にまつわる事例を鑑みても、モラルについて生徒に十分指導する必要があるが、使い方については教員の知識も育成していく必要が有る。

<学級活動>

- ・学級活動の項目に注目している。前年度より上昇しているので、集団づくりの部分で頑張ってくださいと感じる。過去には厳しい意見もあったが非常によい傾向だと思う。
- 集団作りという点では、行事の中で子どもが主体的に活動することで集団がまとまりつつある。年度末にはクラス替えをしたくないという意見が出るくらい、よい集団ができつつある。

【平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について】

- ・分析の中で授業規律 PT、授業研究 PT、校内美化 PT の成果が現れていると思うが、自己分析の「△」の部分について、課題解決に向けての改善策を打ち出していく必要がある。よかったところも含めてご意見を伺いたい。

<学校間連携>

- ・中学校では、小学校の授業規律を学びに行った。まずは継続をしていく必要があると思う。気持ちのいいクラスルームを作っていくということを心がけてきた。高等学校の音楽チャイム(予鈴)はよいなと感じた。学校間で連携をする機会があればぜひお受けしたい。
- 長野高等学校では、長野中学校へ教員が見学に行っている。本校は ICT などが充実しているの、中学校からも来ていただき活用していただけたら。学校間連携について形になればよいと思う。

<環境整備>

- ・環境整備は重要。きれいにしていれば仕事がきっちりできる人材を育成できるのではと感じる。
- 校内美化 PT については一定の方向性を年度内に示して、次年度はより具体的な活動を、保健部や生徒の環境委員などに引き継いでいく。環境整備は重要だと感じている。

<保護者への連絡・情報発信>

- ・従来のメーリングリストの配信と学習支援クラウドサービスの活用で発信を行っているが、保護者が「見ました」ボタンを押さないと伝わっているかわからない。9月以降の導入なので、教員もよい方法を模索中である。
- ・教員間の連絡や職員会議のペーパーレス化は進んでいる。今後は大規模災害時の連絡や、学習ドリルの活用、懇談での欠席状況などの確認などに活用していきたい。

<奨学金の返還>

- ・育英会に返還の説明を行っていただいた。プレゼンテーションソフトなどを使って説明をしていただいた。

<進路状況>

- ・就職 100%をめざす。現段階では 80%程度
- ・学校就職で決まらなかった生徒については、ハローワークへ連れて行くなどして、就職へ向けての活動が続いている。進学に関しては、クラブで功績をあげた生徒は、中堅私立大学に合格している。

<生徒支援>

- ・中学校では、生徒の困り感を知ろうということで、子ども支援委員会という組織で、クラスでの関係性を見ていくシートを作った。教員がアンテナを張り、気づいたことを相談しあう、情報共有できる時間を持つ機会をつくっていくのは有効だと思う。今後も体制作りをしていってほしい。
- 就学支援委員会において、配慮を要する生徒の個別の支援計画の策定や、困り感を抱えている生徒のアセスメントなどを行っている。SSW の活用は、今年度途中からの事業であり、個別対応が中心となっているが、次年度は全体で活用できるよう体制作りをすすめている。

<生徒指導>

- ・遅刻指導について。遅れてくる子の姿を見て心を痛めている。ひとり暮らし家庭への訪問でも情報共有は重要だと日々感じている。個人情報保護も大切だが、教員間の情報共有は重要だと思う。小学生、中学生が地域の高齢者ボランティアをしていく。
- 遅刻指導については、基本的な生活習慣をつけることが必要。SSW の活用は、次年度はもっと教員を巻き込む形で行っていきたい。
- 生徒指導では、遅刻者に対して起床・就寝時間などの聞き取りをしている。携帯電話の使い方に関しても注意喚起をする必要を感じている。

【平成 31 年度学校経営計画及び学校評価について】

- ・ICT、パッケージ研修、公開研究授業
- ・授業改革-生徒指導・授業規律
- ・教員等の連携【チーム学校】-人材活用
- ・授業改善【自己肯定感】ICT 活用、授業規律・基本的な生活習慣
- ・進路指導【希望進路の実現】
- ・SC SSW の活用
- ・人権研修

⇒「めざす学校像」及び「中期的目標」の承認

- ・教育庁との面談後、「めざす学校像」及び「中期的目標」に変更があった場合は、修正した文書を送付し承認をしていただく。

<地域連携>

- ・地域に根ざした学校をめざす。ICT 機器の設備なども充実しているの、空き教室の活

府立長野北高等学校

	<p>用を考えている。公開講座は実施数も参加数も減少し、目標に達することができなかった。</p> <p><学習支援員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮を必要とする生徒の支援として、地域の人材活用ということで現在も非常に助かっている。大学生にインターンシップなどで来ていただけると非常にありがたい。是非ご紹介していただきたい。 →配属実習などにかえていく動きがあるので、学校現場で学ぶ機会を与えていただけるといふことであれば是非検討したい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己肯定感を高める	<p>(1) 授業改善を積極的に行う。</p> <p>(2) 生徒の規範意識を高める。</p>	<p>ア 授業研究「分かる授業」「楽しい授業」の定着をめざし、教員相互で授業力向上を図る。</p> <p>イ 増学級や「数学」、「英語」以外にも少人数授業を実施する。「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。</p> <p>ウ 保護者向けの授業参観日を年に2回設定し、参加者の増加を図る。また、授業公開月間を設定し、教員相互に授業を観察する。(6月、9月)</p> <p>エ 全教室にプロジェクターを設置するとともに効果的な活用方法について研究を行う。</p> <p>オ 実験・実習を授業中に多く取り入れその成果などを発表する機会を設ける。</p> <p>カ 朝学習の目的を明確にし、基礎学力の充実とスケジュール管理できる力を養う。</p> <p>キ 基礎力診断テストなどを活用し、生徒の実力を定点観測し、生徒の学力向上と授業改善に役立てる。</p> <p>ク 授業規律を確立することにより、授業に集中できる環境を作る。</p> <p>ア 通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外外で登校指導および定期的な下校指導を行う。</p> <p>イ 服装、頭髪、遅刻指導の方法を再考し、生徒の規範意識を高める指導を行い、ルールやマナーの大切さを自ら考えさせる。</p> <p>ウ 校内での清掃活動について改善策を作成し、定期的に美化週間を設けるなど、校内美化に努める。</p> <p>エ 人権研修の実施や人権ニュースを定期的に発行し、人権意識を醸成する。</p> <p>オ 身だしなみについての講習を行う。</p>	<p>ア 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度を85%以上にする。(H29は78%)</p> <p>イ 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を65%以上にする。(H29は41%)</p> <p>ウ 保護者の授業参観への参加者数を50名以上にする。(H29 50名)。教員相互の授業見学を各自年2回以上。(H29 6月12回 9月19回)</p> <p>エ 学校教育自己診断における「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」を65%以上にする。(H29 45%) 「先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている。」を85%にする。(H29 82%)</p> <p>オ 学校教育自己診断における「実験・実習の機会がある」を65%以上にする。(H29 43%)</p> <p>カ ドリルで不正解の多い生徒の補習を実施し、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」を85%以上にする。(H29 79%)。また、全員がスケジュール表の作成を行う。</p> <p>キ 基礎力診断テストの分析を学年ごとに行い、生徒に周知する。</p> <p>ク 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話を聞き学習に取り組んでいる」の項目における満足度を90%以上にする。(H29 87%)</p> <p>ア 通学状況について学校協議会の地域代表者等から評価していただく。</p> <p>イ 遅刻者数減少の努力を継続し、述べ5000名以下にする。(H29 5458名)</p> <p>ウ 学校教育自己診断において「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」を35%以上にする。(H29 29%)</p> <p>エ 人権ニュースを年5回発行する。学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を60%以上にする。(H29 45%)</p> <p>オ 「身だしなみ」講習(3年対象)の実施</p>	<p>ア 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度は1学期77%、2学期79%であった。目標の85%には到達しなかったが、ICT機器の活用、授業研究PTによる様々な取り組みの成果として後半は向上している。学校全体の取組として継続していきたい。(○)</p> <p>イ 「授業は分かりやすく楽しい」の項目は、学校教育自己診断を実施した時点(12月)では、目標には到達しなかったが(△)、昨年より12pt上昇し53%となっている。本年度途中から整備されているICTを含む環境改善は、3学期も大きく改善が進んでおり、現状では目標に到達していると判断できる。(○)</p> <p>ウ 5月の授業参観日には保護者の来校数は44組、延べ60名の参加と昨年度に比べ大きく増加した。授業見学は、6月23回 9月44回。ほぼ、全ての教員が実施した。(◎)</p> <p>エ 学校教育自己診断における「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」の結果は74%であった。全教員がタブレット端末を活用することにより今後ますますの向上をめざす。(◎)</p> <p>授業アンケートの「先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている。」の設問については、今年度から「先生はICT機器や視聴覚教材を有効に活用している」に変更した。(◎)</p> <p>オ 学校教育自己診断における「実験・実習の機会がある」58%と目標は下回ったが(△)、15pt向上した。ICT活用は大きく伸びており、今後は生徒の発表の機会を増やすことをめざす。(○)</p> <p>カ ドリルで不正解の多い生徒の補習については継続して進めていく。「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」は、80%とほぼ横ばいとなり改善に向けさらなる創意工夫が求められる。(△)しかし、スケジュール表の作成については全員が行えている。(○)</p> <p>キ 基礎力診断テストの分析会を1,2学年について、生徒用および教員用に実施し、分析の仕方を周知した。次年度以降の定点観測に活用する。(○)</p> <p>ク 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話を聞き学習に取り組んでいる」の結果は86%と横ばいである。次年度は、授業規律を確立することで、向上をめざす。(△)</p> <p>ア 第2回学校運営協議会にて地域の方からごみのポイ捨てがなくなったと評価していただいた。(○)</p> <p>イ 遅刻者数は6729名と増加している。授業規律と並び、今後の重点目標である。(△)</p> <p>ウ 「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」の結果は40%と目標には達しているがまだまだ低く、校内美化PTを中心に改善に努める。(◎)</p> <p>エ 人権ニュースは2学期末までに4回発行しており3学期に5号発行予定。「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の結果は51%と昨年度より向上したが目標には届いていない。引き</p>

府立長野北高等学校

				<p>続き改善していく。(○)</p> <p>オ 「身だしなみ」講習は「スーツ着こなし講習」として、地元企業協力のもと実施した。(○)</p>
2	<p>進路希望の実現</p> <p>(1) 生徒の進路希望等に応じた教育課程の編成</p> <p>(2) 進路指導計画を整理・拡充し計画的な進路指導を実現する。</p>	<p>ア カリキュラム委員会を中心に各コースの内容を検討し、生徒の興味・関心に沿ったものとし、進路選択に役立てる。</p> <p>イ 「長北タイム」を平成 29 年度の内容を継承しつつ、より自主的で、主体的な学びとなるように内容を充実する。</p> <p>ウ 朝学習の取り組みを継続し、補習を実施するなど基礎学力の定着を図る。また、各自がスケジュール管理を行えるようにする。</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導計画を作成する。</p> <p>イ 作文指導や面接指導を充実させ、進路決定率の上昇を図る。</p> <p>ウ 漢字検定、英語検定などの検定受検者数を増やし、資格所持者を増やす。</p>	<p>ア 授業アンケートにおける「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の項目を 85%以上。</p> <p>イ 長北タイムの「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の項目で 85%以上。</p> <p>ウ 補習を定期的実施。全員がスケジュール管理をするためのファイルを作成する。</p> <p>ア 進路指導マップを完成させ、生徒及び教員に周知する。</p> <p>イ 進路未決定者の減少(H29 11名) 就職内定率 100% (H29 90%)</p> <p>ウ 漢検・英検の合格者 100名をめぐす。(H29 英語検定は 11名受検し、3級 7名合格、漢字検定は 232名受検準 2級 9名、3級 37名の合格。)</p>	<p>ア 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度は 1 学期 77%、2 学期 79%であった。後半に伸びているが、ICT 機器の活用、授業研究 PT による様々な取り組み年度途中からの取り組みであったため、成果が表れにくかった。学校全体の取組として継続していきたい。(△)</p> <p>イ 長北タイムの「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」は第 1 回 84% 第 2 回 78%と目標には届いていない。教材等をさらに改善する必要がある。(△)</p> <p>ウ 補習については、学期に 1 回実施。今後、学習支援クラウドサービスを活用して進めていく。スケジュール管理は、全員が実施できた。(○)</p> <p>ア 進路指導マップは完成し、周知は出来ている。今後、より積極的に活用できるようにする。(○)</p> <p>イ 進路未決定者は 4 名、就職内定率は 95.1%。引き続き、指導を行いより高い数字をめざす。(○)</p> <p>ウ 英語検定は 19 名受検し、準 2 級 3 名、3 級 2 名合格、漢字検定は 182 名受検し、2 級 1 名、準 2 級 5 名、3 級 32 名合格。(△)</p>
3	<p>安全で安心な魅力ある学校づくり</p> <p>(1) 地域貢献を行うことによる、社会の一員としての意識を高める</p> <p>(2) 生徒会活動やクラブ活動の活性化</p> <p>(3) 保護者との連携による信頼関係の構築</p> <p>(4) 学校情報の発信を強化することで、学校への信頼を高める。</p>	<p>ア 地元について学ぶ「郷土学」を設定し、全学年で地元探訪を行うなど、継続的に地域を知る学習を行うことにより、帰属意識を養う。</p> <p>イ 青少年健全育成会の行事に参加し、小・中学校との連携を図る。地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーン年間 3 回、あいさつ運動年間 3 回)を実施する。校内においてあいさつ習慣を向上させるため、「あいさつ週間」を設ける。</p> <p>ウ 千代田公民館との連携による科学実験教室(楽習室)などを実施する。</p> <p>ア 生徒会役員やクラブの生徒を中心に学校行事の他、地域連携などを積極的に行う。</p> <p>イ 部活動体験を実施し、部活動の加入率を上昇する。</p> <p>ア 保護者との連携を密にし、将来への目標を持つことにより、基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>イ 就学支援委員会を中心に、合理的配慮への理解を進め、個別の教育支援計画の作成や適切な評価がなされるように、教育環境を整える。</p> <p>ウ 教育相談体制を充実させ、個々の生徒及び家庭環境に対して、寄り添った指導を心がける。</p> <p>エ 地域の中学校との連携を密にし、生徒の生活環境を理解することにより、将来にわたって社会で生き抜く力を養う。</p> <p>ア 学校ホームページの充実を図るとともに、ブログでの情報発信を行う。</p> <p>イ 学校公開講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>ア 地元探訪について事前および事後学習を実施。アンケートによる肯定的意見を 80%以上。</p> <p>イ 千代田駅前でのあいさつ運動参加者数を 100 名以上にする。(H29 82 名)</p> <p>ウ クリーンキャンペーン参加者数を 80 名以上にする。(H29 72 名)</p> <p>ウ 実験教室を 2 回実施。生徒のアシスタントとしての参加数 10 名</p> <p>ア 「部活動、生徒会活動が活発である」を 50%以上にする。(H29 39%)</p> <p>イ 体験入部を 2 日間設定し、部活動加入率を 35%にする。(H28 は 28%)</p> <p>ア 学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を 70%に引き上げる。(H29 は 61%)</p> <p>また、中途退学者数 10%減をめざす。(H29 42 期 0 名 43 期 1 名 44 期 15 名)</p> <p>イ 就学支援委員会を週に 1 回実施。ケース会議を年間 5 回。個別の教育支援計画の 1 学期中での作成。(H29 は、3 学期での完成)</p> <p>ウ 教育相談件数を 50 名以上にする (H29 45 名)。懲戒件数を 30 件以下に (H29 23 件)。</p> <p>エ 本校生徒の全出身中学校への訪問を行い、情報交換を行う。</p> <p>ア ホームページの情報を更新。ブログを毎日発信</p> <p>学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度 80%をめざす。(H29 は 72%)</p> <p>イ 学校公開講座を年 2 回 10 講座開催 (H29 11 講座)。科学実験教室(楽習室)を年 2 回実施。(H29 1</p>	<p>ア 学校教育自己診断において 57%の肯定的評価を得ている。(事後アンケートにおいて 94%の肯定的回答を得ている<1、3年>)。全学年で実施し、地域の風土文化の素晴らしさを再確認している。地元を知ることで新たな発見もあり、得がたい経験をしている。(◎)</p> <p>イ 千代田駅前でのあいさつ運動は年 3 回実施。参加者については、85 名であった(2 回終了時点)。また、生徒会役員及び有志により、あいさつ週間を 2 回設定(述べ 10 日)し、実施した。クリーンキャンペーンを 1 回実施し、参加者数は 41 名であった。(○)</p> <p>ウ 実験教室を 1 回実施。地元の小学生 40 名が参加した。生徒のアシスタントとしての参加者数は 10 名であった。(△) 回数は増えなかったが、内容については参加者、教員からも非常に好評であった。(◎)</p> <p>ア 学校教育自己診断において「部活動、生徒会活動が活発であると思われる」は、37%であった。(△)しかし、水泳部でインターハイに出場、科学同好会が府学生科学賞で最優秀賞(知事賞)、書道部で高校芸術祭入賞など非常に高い成果が見られた。(◎)</p> <p>イ 体験入部を 2 日間設定した。部活動加入率は 29%であった。(△)</p> <p>ア 学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」は 67%だった。評価指標にはわずかに到達しなかったが、昨年度よりも 8pt 向上している。</p> <p>中途退学者数は、25 名(43 期 2 名 44 期 8 名 45 期 15 名)。多様な生徒が入学してくる現状の中、家庭訪問や電話連絡を密に行っているが、昨年度より 20%増加している。(△)</p> <p>イ 就学支援委員会を毎週実施し、配慮を要する生徒についての情報の共有と対応についての協議を行った。ケース会議は 3 回実施。(△) 2 学期以降は、対象生徒ごとに支援チームをつくり、ケース会議よりも、より細やかな対応を行えるようにした。個別の教育支援計画を 1 学期中に作成した。(◎)</p> <p>ウ 教育相談件数は 72 名(SC32 名、SSW40 名)。懲戒件数は 22 件<いずれも 12 月末現在> (◎)</p> <p>エ 1 年生の入学までに全出身中学校への訪問を行い、情報交換を行った。(◎)</p> <p>ア ホームページの情報やブログを適時更新している。2 学期からは、教育支援クラウドサービスを導入したことにより、こちらへのシフトを行っている。学校教育自己診断「学校は、教育情報の収集や保護者への提供の努力をしている」は 76%であった。(△) 評価指標にはわずかに到達しなかったが、学習支援</p>

府立長野北高等学校

		ウ 携帯連絡網への登録件数を増やすとともに発信回数を増やす。	回) ウ 携帯連絡網の登録を 75%以上 (H29 69%)。行事ごとに情報提供。	クラウドサービスでの発信と合わせ、情報提供量は、昨年度よりも向上している。(○) イ 学校公開講座を年 2 回 7 講座開催した。科学実験教室(学習室)を 1 回実施した。(△) ウ 携帯連絡網の登録率は 45%であった。(△) 2 学期から教育支援クラウドサービスを導入し、全生徒・保護者に利用者 ID を付与した。携帯連絡網よりきめ細かな情報提供が可能となっている。(◎)
4 学 校 運 営 体 制 の 効 率 化 と 危 機 管 理 能 力 の 向 上	(1) 学校運営体制の効率化をめざす (2) 組織目標の明確化と課題解決に向けての取り組み (3) ミドルリーダーの育成 (4) 危機管理体制の充実と防災教育の再構築	ア 運営委員会を中心としたミドルアップダウン型の構成を校長のリーダーシップとともに教員のフォローシップの向上を図ることにより、迅速な意思決定と組織内での合意形成を図る。 イ 分掌・委員会の統廃合を推進し、業務の細分化による非効率化を解消する。 ウ 電子メールや共有フォルダの活用により、情報伝達の迅速化と情報共有を進める。また、職員会議を 2 週に 1 回程度開催することとし、情報共有と意思統一を図る。 エ 情報処理委員会を発足し、出欠、成績および生徒情報などを一括して管理し、共有することで、迅速で適切な生徒の指導へと役立つ。 ア 目標設定や授業観察などの際の面談の機会を確保し、学校の目標や課題を明確にして共有することで、個々の能力を発揮できる環境を整え、組織力の向上をめざす。 イ 現状分析と目標設定を基本とした、課題の明確化と具体的な対応策の構築を行う意識の浸透を図る。	ア 原則として運営委員会を毎週、職員会議を隔週として校務の処理にあたる。(H29 いずれも月 1 回) イ 分掌を 4 分掌以下として組織統合により業務の効率化を進める。 ウ 電子メールでの情報共有とともに共有フォルダを活用し、校内文書の電子化を進める。 エ 校務処理システムにより、出欠の日々入力の完全実施。生徒情報の集約と共有を行う。(H29 未実施) ア 目標設定および開示面談の他、授業観察等の機会に面談を行う。 イ 学校の課題解決に向けた研修を実施するとともに、様々な課題に対して分析と解決策の策定を行う。 ア 初任者に対する教科での指導の他、組織的な研修を 10 回以上実施する。職員会議での伝達研修や研究発表の場を 5 回以上。 ア いじめ対策委員会を年間 5 回以上実施する。 イ 地震や火事を想定した防災訓練を年間 2 回以上実施する。 ウ 職員会議の際に、インシデント等に対する情報共有を行う。	ア 原則として運営委員会を毎週、職員会議を隔週で実施し、迅速な意思決定と組織内での合意形成を行った。(○) イ 来年度より総務部を廃して 5 分掌とすることを決定し(△)、4 分掌以下とはならなかったが、業務を細分化することなく、全ての業務を全校体制で取り組む合意が形成された。(○) また、全教員へのタブレット端末の貸与や学習支援クラウドサービスにより、業務の効率化は急速に進んでいる。(◎) ウ 電子メールや共有フォルダの活用、2 学期から導入した教育支援クラウドサービスにより、校内文書の電子化、職員会議でのペーパーレス化が行われた。(◎) エ 校務処理システムによる出欠の日々入力を完全実施している。また、教育支援クラウドサービスの導入により、保護者への情報提供も可能となっている。(◎) ア 目標設定、進捗状況および開示面談の他、年 2 回の授業観察の後、振り返りの面談を行い、各自の特性を引出し、課題の洗い出しを行っている。(◎) イ 基礎学力診断テスト、学級診断尺度調査の結果を踏まえた研修を行い、様々な課題に対して、エビデンスに基づいた分析と解決策の策定が行える条件を整えた。(◎) ア 府教育センターと連携したパッケージ研修、ICT 活用研修、人権研修、就学支援研修等を実施し、業務に必要な知識の獲得を行った。また、外部研修への参加者が職員会議で伝達研修を行った。「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」76% が役立っていると回答。(◎) しかし、初任者が、10 月以降、休職した教員の代替として担任業務を行うこととなり、組織的な研修は実施していないが、(△) 担任業務を通じて、OJT としての成果を上げている。(◎) ア いじめ対策委員会を 5 回開催した。<12 月末現在> (○) イ 火事を想定した防災訓練を 1 回、地震を想定した防災訓練を 1 回、計 2 回実施した。(○) ウ 職員会議の際に、適時、インシデントに関する情報共有を行っている。(○)